

産地戦略

実施期間 令和 8 ～12年度

実施主体 富山県
都道府県 富山県
対象地域 魚津市、富山市、射水市
対象品目 ぶどう



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

近年、本県では省力栽培が可能で庭先で高単価販売が期待できるぶどう栽培が、若年層を中心に取組まれており、また、企業体による大規模な開園がみられるなど、多様な経営体が増えてきている。

このような状況の下、富山県園芸振興推進協議会では令和 2 年度に「ぶどうの生産振興プラン」を策定し、販売金額がおおむね1,500万円の優良経営体（「とやま型ぶどう栽培モデル」）を育成するとともに、県産ぶどうの生産拡大を進めている。一方、これらの品種は露地栽培の事例が多く、主産県と比べ降水量が多い本県では病害が発生しやすいため、農薬防除回数の増加と果実品質の低下が課題となっている。

このことから、令和 6 ～ 7 年度に、露地栽培のぶどう「シャインマスカット」において簡易雨除け（トンネルメッシュ）被覆の実用性を検討し、農薬（殺菌剤）使用量の低減と、それに伴う防除回数の削減（作業省力化）の技術が実証された。

本技術は栽培マニュアルとしてとりまとめ、県内ぶどう農家に配布するとともに、普及指導員らが技術指導の際に活用、さらに県が主催する栽培上研修会等で技術の導入を啓発することで、広く普及が図れるものと期待される。加えて、簡易雨除け（トンネルメッシュ）は従来の全面雨よけ被覆と比較し、導入コストが安価であることから、昨今の資材高騰にも対応でき、普及の際には優位性が発揮されるものと期待される。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名		芽かき	植物調整剤処		摘心				せん定				
				摘粒・摘房	袋掛け		収穫						
								防除					
技術名													



グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名		芽かき	植物調整剤処		摘心				せん定				
				摘粒・摘房	袋掛け		収穫						
技術名													

【環境に優しい】【省力化】
7月下旬（袋掛け時期）～収穫前
及び収穫後の殺菌剤散布を削減

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R 7	目標R12	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	25.4	▶ 30.0	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0.1	▶ 3.0	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0.1	▶ 3.0	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0.1	▶ 3.0	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	生育期間を通じた殺菌剤の散布（年総使用回数数13回）	簡易雨よけ「トンネルメッシュ」設置による7月下旬（袋掛け時期）～収穫前及び収穫後の殺菌剤散布を削減（年総使用回数9回）	化学農薬の使用回数の削減 農薬散布作業の省略化

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	化学農薬の年間総使用回数（回）	13	9	7月下旬（袋掛け時期）～収穫前及び収穫後の殺菌剤散布を削減
省力	化学農薬の年間散布時間（h/10a）	18	12	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

成果を取りまとめた「栽培マニュアル」を県内ぶどう農家に配布するとともに、普及指導員らが技術指導の際にマニュアルを活用、さらに県が主催する栽培研修会等で技術導入を啓発する。なお、今後、想定される異常気象等による設置効果への影響等年次変動の把握に努め、他県での事例も参考としながら的確かつ柔軟な指導を実施する。

関係者の役割

関係者名	富山県広域普及指導センター	農林振興センター	JA	
役割	・マニュアルを活用した防除等指導 ・設置効果年次変動等把握 ・栽培研修会等開催 ・技術導入状況等とりまとめ ・県外優良事例等情報収集	・資材設置指導 ・マニュアルを活用した防除等指導 ・設置効果年次変動等把握	・資材調達、設置指導	

事業を活用して導入した農業機械等の活用面積の目標

生産物の販売方法、消費者理解の醸成の取組等

その他